

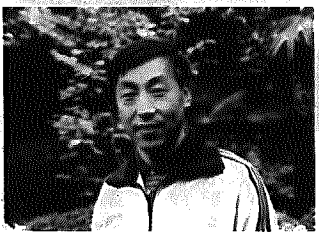


プロフィール
李興武(リー・シュン・ウオ)さん—
中国黒竜江省哈爾濱市道里区新發
人民公社第二畜牧場の獣医。奥さ
んと二男一女がいます。37歳。

農業が結ぶ日中友好 中国から来村の農業実習生

李興武(リー・シュン・ウオ)さん37歳と
馬国強(バコウ・チャン)さん31歳と
今月は六月から農業実習生
(農協中央会と中国新發人民
公社)として、本村の農家で
日本の農業を学んでいる李さ
んと馬さんのお二人を訪ねて
みました。

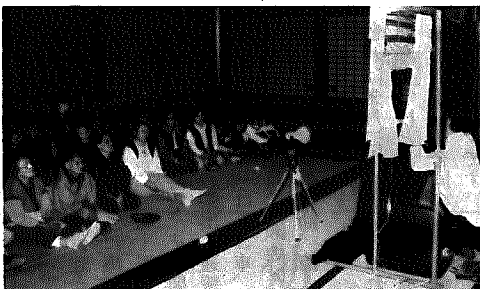
李興武さんは富岡の川上作
一さん宅で日本の農業をつぶ
さに見て、養豚を通して実践し、中国
の将来の農業のため実習をしています。
「私のところでは李興武(リー・コ
ウ・ブ)さんと日本語読みで呼んでい
ます。時間はきちんとしており、よく
やっております。また、みなさ
んが一番気になる食事は特別なもので
はなく家族と一緒にものを食べていま
す」と川上さん。



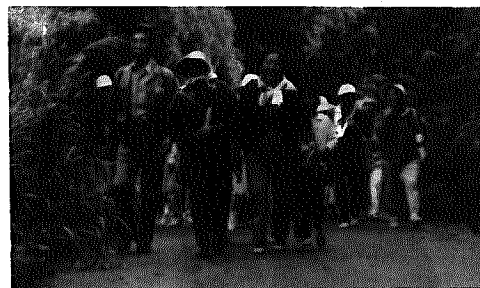
プロフィール
馬国強(バコウ・チャン)さん—中
国黒竜江省哈爾濱市道里区新發人
民公社第三畜牧場の技術員。奥さ
んと一男二女がいます。31歳。

「ご飯です」とお米のおいしさを力説す
る李さん。お国の天候のインパクトに
「今ごろ五センチくらい雪が積っ
ているはずですよ」とふるさとを思い出
して、ちよっぴり感傷的に……。
もう一人、橋本の藤田光男さん宅で
乳牛を中心に農業実習に励むのは馬国
強さん。

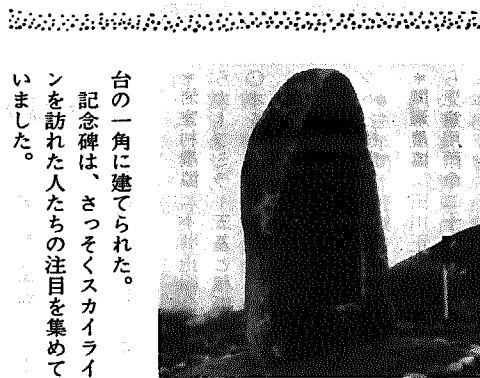
「うちでは、マーさんと呼んでいま
す。ほんとはバさんなんですけど、も
う一人(お)ばあさんがいるんで」と
藤田さん。馬さんの好物もやはりご飯
。「日本のお米、おいしい」と言う。
馬さんにはもう一つ大好きなものが
ある。テレビでおなじみのドリフター
ズの志村けんさんである。「土曜の夜
は楽しみです」とニコリ……。
日本に来て約半年が過ぎ日本語もか
なり話せるようになったお二人は今月
二十八日、ここでの実習を終え、そ
の後試験場などで再実習したあと来月
十六日に帰国の予定です。農業が結ん
だ小さな日中友好が実を結び、岩室で
実習した成果が中国の大きな農業に生
かせるよう、お二人のご活躍を期待し
ています。ガンパッテクださい。



▲流行歌も交えて—先月14日、間瀬専光寺(岡
本正明住職)で間瀬地区民を対象に公民館主催
の村民講座が開かれました。
夕食後の午後7時から始まった講座には、60
人余りの地区民が集まり、講師の渡辺豊さん(笹
神村)の人形劇を使った流ちょうな話術にみな
さんすっかり感心—時折、流行歌も交えての
講座は大盛況でした。



▲さわやかな秋の一日—先月3日、第4回村
民歩け大会が行われました。この日の参加者は
総勢110名。金子村長を先頭にさわやかな秋風を
うけながら林道(金池~岩室間)に挑戦。
途中、一行は天神山城址に登り、村文化財保
護審議委員長の斉藤嘉吉さんの説明を聞いた
りして、正午前に丸小山・緑地広場にゴールイ
ン—午後からはゲートボールやレクゲームに汗
を流し、楽しい一日を過ごしました。



台の一角に建てられた。
記念碑は、さっそくスカイライ
ンを訪れた人たちの注目を集めて
いました。

大きな運動会

澄みきった秋晴れの先月六日と十日、中央保育園
(高橋さえ子園長・園児一八四人)と間瀬保育園(後藤
トミ子園長・園児三千人)で運動会がありました。
園児たちは今日ばかりは「主役」だと、応援にか
けつけた家族の前に、遊戯や競走に汗びっしょりに
なっていたがばっていました。
ピリになっても、ころんでも何をやっても絵にな
る保育園の運動会—スケールは小さくとも我が子
の成長ぶりに目を細める親たちにとっては大きな運
動会のようなものです……。



●家族の声援を背にうけて…(中央保育園)



●子どもたちの一つ一つの動きは、何を
やっても絵になります…(間瀬保育園)



秋の味、見つけた

—保育園児たちがさつまいも掘り—

「うわー、芋がいっぱい」「先生、先生これ
見て」——さわやかな秋晴れの先月11日と13日
の両日、村内の4保育園児が「秋の味覚をたず
ねて、芋掘りを楽しみました。園児たちが訪れ
たのは、自然休養村事業の野菜ほりとりもぎと
り園(間瀬羽入地内)のさつまいも畑。
葉っぱやつるは先に取り除かれ、掘りやす
くなったところで芋掘り開始—小さな手で次々
と掘しおこしていく。大きい芋は、土中深く埋
まっているため小さな手では、なかなか出てこ
ない。見てください、この3人の真剣な姿—畑
は約1時間かわいい歌声が飛び交っていました。

* 弥彦山スカイライン*

佐渡見台に新名物

弥彦山スカイラインの佐渡見台
の一角に「坂井銅山史跡」の石碑
が建立され、先月九日除幕式が行
われました。
この石碑は広報十月号で、ご紹
介した坂井さんら兄弟が「祖父の
情熱を形にして残したい」と計画
し、村の協力で建立したものだ。
「坂井銅山史跡」の題字は金子
村長の書で、高さ一・六メートル、
八分の黒み影石に刻まれ、佐渡見